

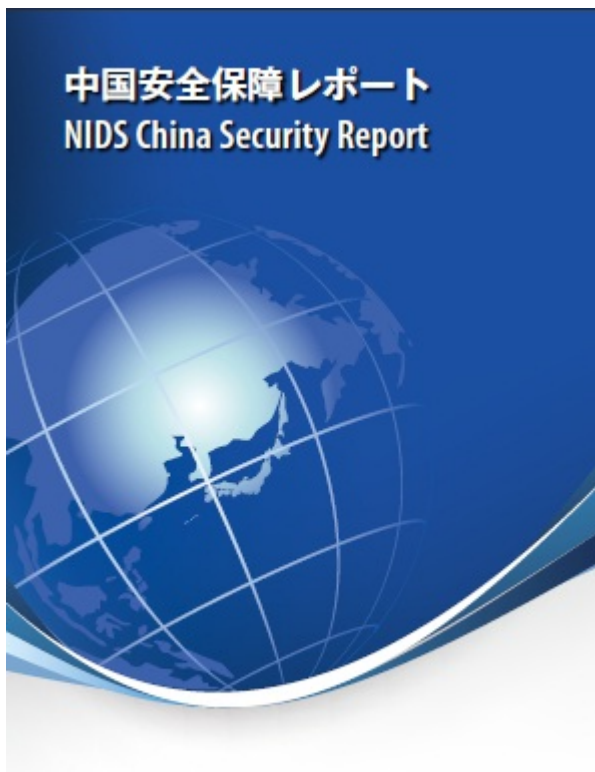
“NIDS NEWS”



防衛研究所企画室編集(03-3713-5912)

..... 2011年4月の主な出来事

《『中国安全保障レポート』の刊行》



防衛省防衛研究所
National Institute for Defense Studies, Japan

防衛研究所の新規刊行物である『中国安全保障レポート』が刊行されました。

『中国安全保障レポート』は、研究者の立場から、中国の軍事・安全保障動向を分析したもので、中国に対する国内外の関心の高まりに応えることを目的としています。第1号となる今回は、拡大する人民解放軍の活動範囲と役割を増す中国の軍事外交に焦点を当てて分析しました。

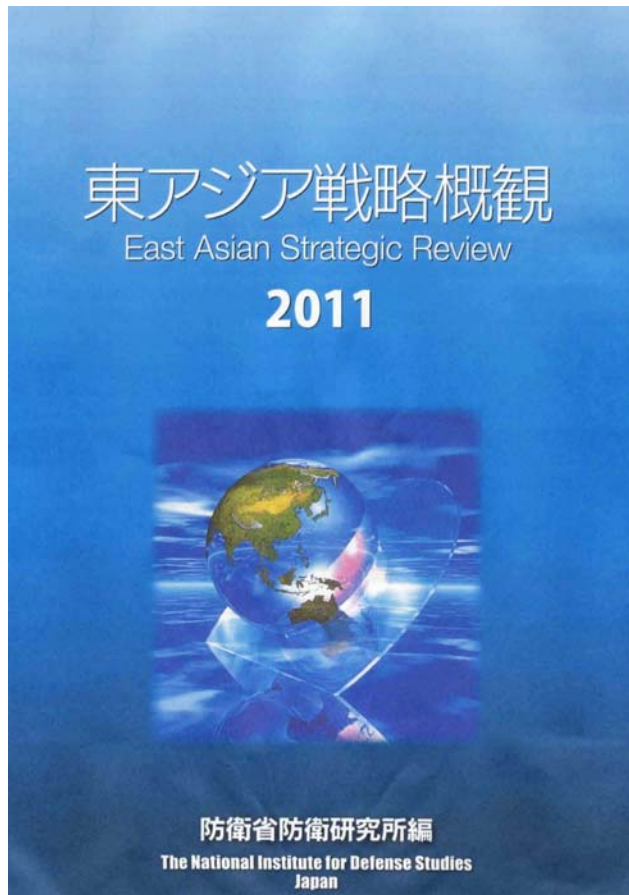
本レポートは、日本国内はもとより、中国を含む国際社会に発信し、それによって中国動向に関する対話や交流の拡大に資することを目的としています。

また、本レポートは日本語版のほか、英語版と中国語版も同時に刊行しています。今後、防衛研究所は年1回、『中国安全保

障レポート』を刊行する予定です。

『中国安全保障レポート』は、防衛研究所ウェブサイト(<http://www.nids.go.jp/>)においても全文が閲覧可能です。

《『東アジア戦略概観 2011』の刊行》



防衛研究所の代表的刊行物である『東アジア戦略概観 2011』（日本語版）が出版されました。

『東アジア戦略概観』は、安全保障の観点から東アジアの情勢分析を内外に広く提示し、同地域における戦略環境の理解を深めるとともに、地域諸国との安全保障に関する安保対話の端緒をつくるため、防衛研究所が刊行しています。

本書は防衛研究所の編集・執筆グループが、研究者独自の立場から東アジアの戦略環境を分析したもので、平成9年以来、毎年発行されており、今回が15号目となります。

『東アジア戦略概観 2011』の分析の対象期間は2010年1月から12月の1年間で、対象地域は、日本をはじめとして、朝鮮半

島、中国、東南アジア、ロシアと、東アジアの安全保障に重要な役割を果たしている米国です。

今回は、トピックス章として、「グローバル金融危機と国際安全保障環境 - 主要国の国防予算への影響 - 」、「北極海秩序の将来 - 沿岸国の協調と対立 - 」を取り上げています。

『東アジア戦略概観 2011』は、アーバンコネクションズ社から市販され、防衛研究所ウェブサイト (<http://www.nids.go.jp/>) においても全文が閲覧可能です。

《 第58期一般課程 》

4月は第3学期の総仕上げとして、「社会の安全と危機管理」及び「近代日本の軍事史」の各講座のまとめが実施されました。

25日(月)から最後の学期である第4学期が始まりました。第4学期では、講座「日本

の防衛」を実施するとともに、課程の総仕上げとして事例研究、国外現地研修及び研究論文発表を実施します。

また、東義孝防衛政策局防衛計画課防衛能力分析班主任研究官による特別セミナーを皮切りに、セミナーとして「ロシアと東アジアの安全保障」、「NATOの変容」、「米国の政軍関係」、「テロ対策の諸問題（日本の課題）」、「南アジアの安全保障-中印関係を中心に-」、「軍事史史料とこれからの文書・史料」、「宇宙の軍事利用と米国」の7個セミナーを開始しました。



なお、3月11日に発生した東日本大震災の被災地復興のため、仙台駐屯地の日米共同調整所に派遣されていた米国からの留学生ケンダル海兵隊中佐が任務を終了し、一般課程研修に復帰するとともに、一般課程研修員に対しブリーフィング(「災害対処状況」)を実施しました。

〈 HP掲載出版物のお知らせ 〉

東アジア戦略概観 2011(英語版)

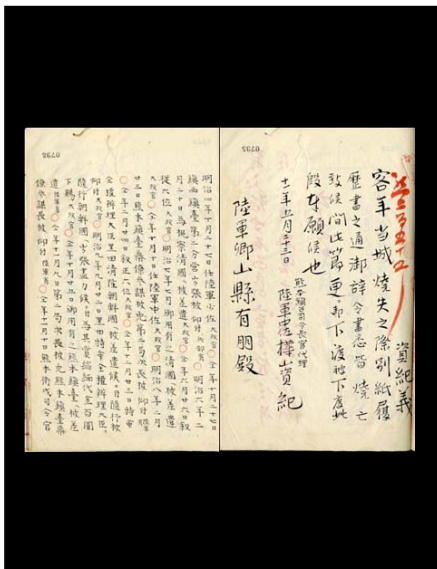
戦史研究年報 第14号

平成22年度戦争史研究国際フォーラム報告書

・・・「史料紹介コーナー」・・・

平成23年度は、歴代陸海軍大臣の中から毎号一人を取り上げて、図書館史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

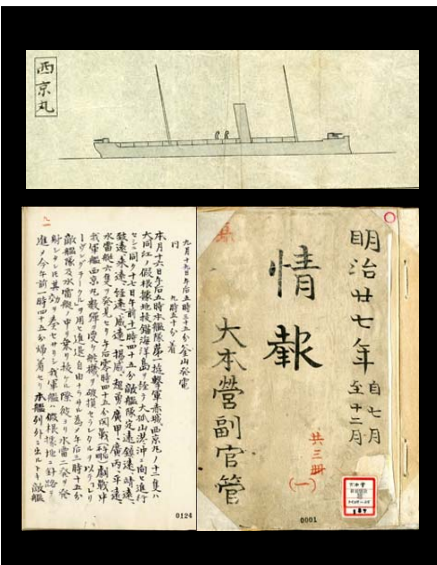
かばやま すけのり
《 樺山 資紀 1837～1922年 》
- 陸海両軍で活躍した異色の軍人 -



樺山資紀辞令書御下渡伺

(登録番号：陸軍省 - 大日記 - M11 - 20 - 44)

樺山資紀大將は、明治4年10月、陸軍少佐に任ぜられた後、熊本鎮台の参謀長として西南戦争を戦うとともに、明治17年には軍籍を海軍に転じ、海軍大臣、台湾総督等の要職を歴任しました。この史料は明治11年5月、熊本鎮台司令長官代理の同大將(当時陸軍中佐)が、西南戦争において熊本城の焼失により失った辞令書の再交付を山縣陸軍卿に願い出た「樺山資紀辞令書御下渡伺」です。同伺には「客年当城焼失之際別紙履歴書之通御辞令書悉皆焼亡致候間此節更ニ御下渡被下度此段奉願候也」とあり詳細な履歴書が添付されています。この願いは聞き届けられ十四通の辞令書が再交付されることになりました。



海戦情報 大同江港外 軍艦西京丸

(登録番号：大本営 - 日清戦役雑 - M27 - 25 - 137)

樺山大將は海軍軍令部長として日清戦争を戦いました。この史料は明治27年9月17日、軍令部長の要職にあった同大將(当時中将)が自ら軍艦西京丸(上図、「日清海戦史 黄海役 附図」登録番号：海軍省 - 日清 - M27 - 33)に乗り組んで黄海海戦に参加した際の「海戦情報」です。「午後零時四十五分開戦・・・劇戦中我軍艦西京丸数弾ヲ受ケ舵機ヲ破損セラレタルヲ以テ・・・敵艦隊及水雷艇ノ中ヲ乗り抜ケル際彼ヨリ水雷二発ヲ・・・」と軍令部長名で大本営宛に緊迫した戦闘の様相が報告されています。舵を損傷した西京丸は清国艦隊の中を突破して無事に仮根拠地である大同江(朝鮮)に帰還しました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。
防衛研究所企画室
専用線：8-67-6522、6588 外線：03-3713-5912
FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp
防衛研究所ウェブサイト：http://www.nids.go.jp